



★Team Shoyo★校内支援体制

～できることから みんなで実践～



支援体制構築の流れ

コーディネーター
(教育相談・特別支援)
保健相談部・養護教諭
の動き

中学校からの引き継ぎ



学習が積み上がらない

遅刻・早退が
増えてきた。

生徒本人からの訴え



保護者からの相談

周りの生徒からの訴え

友達トラブル
が多い。

なんだか育て
にくい。

教員の気づき



授業中にボーズ
としている。

慢性的な疾患があり
学校生活が不安。

担任・教科担当者・保護者が
生徒の『困り』で気づいたことを
養護教諭や コーディネーターに
伝えます。**早めの気づきと発信**
が、生徒の『困り』の早期解決に
繋がります。

保健相談部・生徒指導部 特支コーディネーターへ

SS会議 (生徒支援初動会議)

☆チームで『困り』の要因を探る！☆
☆チームとしての解決案を考える！☆



【チームで情報を共有】

- ・ 学習の様子・・・授業中の様子・成績・欠点の有無など (教務・担任・教科担当・・・)
- ・ 友達関係 ... 休み時間の様子・部活動・友人トラブルなど (生徒指導・担任・顧問・・・)
- ・ 家庭環境 ... 小中学校からの申し送り・保護者の思いなど (保健相談・担任・・・)

【情報を整理しチームで課題解決の案を持つ】

- ・ 生徒の『困り』の要因を探りながら、支援の方法等の解決案を立てる
- ・ 学校組織として動く必要がある場合

生徒支援委員会 (または小委員会) は、に繋ぐ

どのような学び方を得意とするのか、なぜそのような行動をとるのか、本人との面談を通して背景や要因に目を向けながら、解決案を考えます。(必要に応じて「**個別的教育支援計画**」等作成へ)

対応
SS会議で出された案を基に役割分担をして
※必要に応じて関係機関と連携

生徒支援委員会 ※定例年4回、その他適宜 (いじめ防止委員会・特別支援教育委員会)

☆チーム会議で検討した案を基に
学校組織としての方向性を協議し決定☆
☆全教職員で共有☆

新入生情報
の共有及び
生徒理解

アンケートQU・
ネガティブチェッ
ク後の対応把握

いじめ事案の
対応協議及び
認定

支援の必要な
生徒に関する
情報共有

不登校 (傾
向)の生徒へ
の対応協議

外部機関・
保護者との
連携協議

学校組織として、支援の方法を協議・決定することで、継続した支援が行われ、同一方向での関わり方が、生徒の自立・成長に繋がります。(必要に応じて「**個別的教育支援計画**」等を活用)

同一方向で支援を行うために決定事項
を教職員や本人・保護者・関係者と共有